

# 4年生国語科学習指導案

期 日 : 平成19年2月8日  
場 所 : 宮小学校4年生教室  
学 級 : 4年生(男子8名、女子12名)  
授業者 : 奥田 賢哉

1. 単元名 学習したことを生かして  
登場人物の人柄や様子、気持ちを想像して読もう「ごんぎつね」

## 2. 指導の立場

### (1)教材について

本教材は、心の交流の美しさと悲しさを描いた文学作品である。ひとりぼっちの子ぎつね、ごんと、兵十との心のすれ違いが、美しい情景描写を背景に、まるで映画のような遠近感をもって描き出されている物語である。同じ「ひとりぼっち」という境遇の二人でありながら、ごんの「心を通わせたい」という願いもむなしく、心はすれ違うばかりである。心の「葛藤」—そして、ついに火縄銃で撃たれてしまう「悲劇的な結末」を迎える。

物語は、「1」～「6」の場面に分かれており、「1」から「5」はごんの視点から、「6」は兵十の視点から書かれている。クライマックスは、二人の心が初めて通い合う「6」の場面であるが、そこで心の交流の美しさと悲しさが心に食い入るような読みをさせたいと考えている。そのため、場面の様子を表す言葉や心内語など叙述をもとにしながら、想像を広げて登場人物の心情を読むことを大切にしたい。

児童は、これまで「三つのお願い」「白いぼうし」「一つの花」で物語文の学習をしてきた。

「三つのお願い」では、言葉や表現に気をつけて読み、その読みの内容を音読に生かすという学習をした。「白いぼうし」では、会話や行動から登場人物の気持ちや人柄を考える学習をした。そして、「一つの花」では、登場人物や場面の様子を、作品の中の大事な言葉に気をつけて想像しながら読み、読み深めたことをもとにお父さんからゆみ子への手紙を書くという学習をした。これらの学習から、叙述に即して読んだり前の場面とつなげて読もうとする意識はついてきた。

そこで、本単元では、「叙述に即して読み、音、光、色に関する描写・心情把握のための伏線となる情景描写・行動描写や心内語に着目しながら、前の場面の言葉とつないで人物の様子や心情を想像する力」をつける授業を仕組みたいと考えている。

### (2)児童の実態 4年生20名

つけたい力からみた児童の実態は以下のようなものである。

- |                                          |   |    |
|------------------------------------------|---|----|
| A 前の場面とつないで読み、登場人物の心情や様子を想像して、伝えることができる。 | … | 9名 |
| B 場面や行動の描写から、登場人物の気持ちを想像しようとしている。        | … | 7名 |
| C 場面や行動の描写から、登場人物の気持ちを想像することが難しい。        | … | 4名 |

子どもたちは、叙述をもとにいろいろなことを思いながら物語を読むことができる。話の内容も理解できるが、根拠となる言葉をもとにして自分の考えを述べる子は限られており、その子達

が中心になって授業が進んでしまいがちである。そこで、BやCの子たちが考えをまとめたり表現したりしやすいようにまとめの型を準備し、読み取りの手だてとして生かすことを考えている。

本単元の出口では、登場人物の心情を読み取った児童が、教材文の心内語に付け加えたり、新たに補ったりして、登場人物の気持ちを表現できるようにしたい。また、読み深めたことを音読劇で表現できるよう、声の調子・間・速さ・強弱を工夫して読むことができるようにしたい。

### (3)研究テーマとの関わり

仲間と共に学び合う子の育成  
～ 考え、学び合い、高まる授業をめざして ～

#### 研究内容1 「自分の考えをもつことができるようにするための指導のあり方」

○『カロリアの人達に兵十やごんの様子がよく伝わる音読発表会をしよう』を単元を貫く課題とすることで、2次の読み取り活動に必然性を持たせる。

また、貫く課題の五つの言語意識は次のようである。

目的：読み取ってきた「ごんの気持ち」と「兵十の気持ち」を分かってもらう。

相手：カロリアのおじいちゃん、おばあちゃん

場面：カロリア訪問での音読劇

方法：a) 表情・動作・セリフ・行動などを根拠にして登場人物の様子や心情を想像する。

b) 前の場面での読みとつないで登場人物の様子や心情を想像する。

c) 言葉と言葉をつないだり比べたりして、登場人物の様子や心情を想像する。

評価：おじいちゃん、おばあちゃんから感想を聞かせていただく。

○前時までの学習と関連づけて考えたり、比べたりできるように学習の歩みを掲示する。

○一人読みでの自分の考えを書く時間を確保する。

#### 研究内容2 「伝え合う場の設定のあり方」

○話型を示すことによって、見つけたり考えたりしたことをどのように話せばよいのか、学び合う内容はどんなことなのかを明確にする。

○児童がさらに立ち止まって考えを深めることができるように、焦点化する課題を投げかける。

○壁となる課題で十分話し合えるよう時間を確保する。

○机間指導でつかんだ個の様子をもとにして意図的指名をする。

#### 研究内容3 「1時間の学びをその子の力にすることのできる授業のあり方」

○言語能力を高めるために、「会話や心内語に着目した読み方」「情景描写に着目した読み方」

「行動描写に着目した読み方」など、それぞれの読み方のよさを価値づけることにより、物語文の読み方を学べる1時間にする。